べて蒙古語であるとは考へ得られない譯である、今更に進むでかゝる考の下に説明すべきであると思ふ二三の語を祕史の中から擧げて見る。

祕史の第十二卷に太宗斡歌歹汗の驛站を設けた時の詔が見えて居て、中に驛馬を司る人の義に兀剌阿臣（ウラアチン）なる語が用ゐられてある、今の蒙古の文語で **ulagha** といひ、口語で **ulā** といふものは即ち驛馬の義であるから、これは純粹の蒙古語と思はれるかも知れないが、トルコ語の古いものを調べて見ると突厥に既に此の語が存して居る、慈恩傳卷一に見ゆる麴文泰が玄奘の爲に突厥の葉護可汗に致した書中に「願可汗憐師如憐奴、仍請勅以西諸國、給鄔落馬、遞送出境」とある、此の鄔落馬といふのは即ち蒙古の **ulagha, ulā** で驛馬の義に外ならぬことは甚だ明らかで、突厥にも既に驛傳の制度の存したことを證するものであるが、現今もトルコ語中 **ulak ulaγ** の形で **Tar. Kom. Dsch. Osm. Sart. Ot.** 等の方言中に用ゐられ、ウイグル語にも **ulaγuči** は馬夫として用ゐられて居る、(**Rad. ibid. I, 1680**) 而して此の語のエチモロジーは **Vambéry** の說けるが如く (**ibid. 145**) **yol, ol, ul** 等を語原とし、行く、道、行步 (**gehen, wandeln, Gang, Weg**) 等と緣故を有するものでなければならぬ、恰かも次に述べる札木臣（ジャムチン）と同樣の關係である。

祕史の前と同一の場所に札木臣（ジャムチン）なる語が見えて居つて、驛の事務を司る人の義に用ゐられてある、札木（ジャム）(**jam**) なる語は驛の意味に於ては今の蒙古語中に存しないやうであるけれども、**Bretschneider** 氏に據れば近代迄用ゐられたといひ (**M. R. I note 524**) 元代に站 (**chan *cham**) なる字で寫し、**Marco Polo** の **yamb** と記して居る語はこれに外ならぬこと曾て[15]拙著蒙古驛傳考に論じた通りである、白鳥博士は更に[16]東胡民族考咸眞の項に於て托跋魏で